

# 平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

南丹市立美山中学校

美山中学校では、生徒一人一人に、生涯にわたって学び続けることができる基礎基本の習得を図りながら、夢や希望に向かって自らを高める美山っ子を育成するために、一人一人の能力を引き出し、個性を伸ばす教育の推進に努めています。その進捗状況を図る指標の一つとして、文部科学省による「全国学力・学習状況調査」の結果を分析し活用しています。

「全国学力・学習状況調査」(中3)では、中学校2年生修了段階までの国語、数学の学力の定着状況を把握・分析することで、学習指導上の課題を明らかにするとともに、個に応じたきめ細かい指導方法の工夫や改善の充実に役立てることが目的です。

これより、その結果と分析についての概要をお伝えします。本テストでは、生活等についての質問紙調査も実施されており、その回答結果から、生徒の今の学習状況や生活の様子についても分析結果をお伝えしますので、学力との関連性やよりよい家庭生活に向けて、ご家庭で見直しを図っていただく機会の一つにしていただければ幸いです。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の概要について

対象学年	中学校3年生
実施日	平成28年4月19日(金)
科目・時間	国語(45分) 数学(45分) 生徒質問紙(20分程度)
出題範囲	中学校第2学年までに含まれる指導事項
内容	[教科に関する調査(国語・数学)] ○A問題:主として「知識」に関する問題 ○B問題:主として「活用」に関する問題 [質問紙調査] ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する様子

## 2 本校の状況について

調査結果から、本校は国語・数学において京都府・全国の平均より「やや高い」という結果であることがわかりました。

教科に関するそれぞれの問題数は次のとおりです。

国語A 33問 国語B 9問

数学A 36問 数学B 15問

それぞれについて、全国の平均正答数と本校の正答数とを比較した場合、結果は右の表のようになります。

なお、「やや高い」の範囲は全国平均正答数との差が1問以上あることを示しています。

	全国平均正答数との比較
国語A	やや高い
国語B	やや高い
数学A	やや高い
数学B	やや高い

基準	-1問	0	+1問
	やや低い	同程度	やや高い

### 3 各教科の概要について

今回の調査では、国語の全領域、数学Bの〔図形〕以外の領域で全国平均を上回り、授業中に学習した基礎基本となる内容が確実に定着している様子が見られます。授業時の学習規律が確立していることや生徒自身の授業への意欲や真摯に取り組む姿勢が反映しています。

また、身につけた基礎基本となる事項や知識を活用して課題に取り組む分野についても学習の成果が見られます。生徒たちの日々の学習や学校の授業改善も含めた学力向上の継続的な取組成果として捉えることができます。

今後、さらに大きく力を伸ばしていくために、国語・数学で課題と考えている点をあげてみます。

#### (1) 国語A・B

課題の一つとして、文脈に則して漢字を正しく書いたり、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うといった点が挙げられます。日常的に漢字を使って書こうとする姿勢や慣用句やことわざの意味を理解しながら言語生活に活かすという態度を大切にすることを感じます。

また、もう一つの課題として、目的に応じて必要な情報を読み取る力やその情報を根拠に自分の考えを書くという分野での課題が見られます。

今回、結果に表れた課題には、漢字の読み書きに代表される、努力して覚えなければならない事項、何度も繰り返して取り組むことで身につく事項などがありました。国語の学習内容には、授業中の理解だけでは定着しない事柄もたくさんあります。授業中に理解できたことを家庭学習で復習することによって、自分の知識として定着させるという時間を確保していくことが大切です。また、今回明らかになった課題は、一度学習しただけで簡単に身につく内容でもありませんので、こつこつ努力を継続させることも大切です。

#### (2) 数学A・B

今回の調査に限らず、本校生徒の課題としては、活用の〔図形〕領域と、〔関数〕領域があげられます。今回も学習指導要領の領域別で見ると、数学Aの4領域で、数学Bでも、4領域のうち、図形以外の3領域で全国平均を上回っていますが、数学Bの〔図形〕領域では全国平均を若干下回っています。また、数学Bの〔関数〕領域でも、課題がみられました。

今後、関数や図形の基礎・基本を復習しながら、関数や図形の素養が身につくように授業展開の工夫改善をしていきます。

具体的には、授業の中で意図的に学び直すことで既習事項を定着させます。また、身の回りの事象から、ともなう変わる関数の関係や、数学のよさを実感させることによって、様々な事象を変化や対応に関連付けて考え、問題解決しようとする姿につながっていきます。

また、図形領域においては論証能力を身に付けさせていく指導に重点をおいて指導をしていきます。身近な幾何の課題から、自ら課題を見だし、解決するために根拠を明らかにし筋道を立てて説明する表現力や論理的な思考力の育成を目指します。

### 4 質問紙調査について

本調査では、授業への臨み方、家庭学習への臨み方、学校生活全般、家庭生活全般等に関して、85項目の質問に生徒が回答しています。

本校生徒は、概ね全国や京都府と比較すると学習や生活に前向きに取り組む、日々の学校生活や家庭生活を肯定的に捉えようとし、まじめに落ち着いて過ごしているという様子がうかがえます。

しかし、国語・数学・総合的な学習の時間などに対する関心等、学習習慣、生活習慣、自尊感情、規範意識などについては、全国・府の平均と比べるとやや下回る結果となっています。

今後の学校生活の中で、より自主的・より主体的な意識を持たせた様々な取組や学習活動を通して、学び合える学級集団を目指すとともに、よりよい生き方を選択できる力を身につけられるようにしていきます。

○肯定的な回答が多かった・少なかった質問項目について

肯定的な回答が多かった質問項目	肯定的な回答が少なかった質問項目
<p>○今住んでいる地域の行事に参加していますか。</p> <p>○国語の授業の内容よくわかりますか。</p> <p>○400字詰め原稿用紙の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。</p> <p>○地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。</p>	<p>○家で、学校の授業の予習をしていますか。</p> <p>○国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気を付けて書いていますか。</p> <p>○数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。</p> <p>○1、2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。</p>

5 今求められる学びの姿勢（授業への臨み方）とは

本校では、全教育活動を通して、読解力・表現力の向上を図ることを目指して授業改善や行事の精選に取り組んできました。生涯にわたって学び続けるための基盤として豊かな言語力を含めた国語力向上のために、自分の考えや思いを相手意識を持ってわかりやすく伝えることが必要です。

そのためには、

- ・声に出して自分の意見を発表する。  
（聞き手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力）
- ・根拠を明確にして自分の考えを筋道立てて構成していく。（まとめる力）
- ・論理的な文章を読む。（長い文章を苦にせず根気強く読み解く力）

以上のことを意識して学習や行事等に取り組んでいきます。

■結果を受けて、学校としてさらに充実させて進めていくこと

(1) 学力向上の取組【見通し（めあて）と振り返りのある授業】

評価計画を学期当初に提示し、何を学ぶのか、何をどう頑張ればいいのかを見通しが持てるよう考えています。

学習チェック表を提示し、テスト前に、テスト勉強の内容、方法、到達目標、評価規準をリストアップすることで個別に具体的な学習計画を立てて取り組むことをねらいとしています。自分で、「○○はできる、○○はわかる」という状態をチェックし、振り返りながらテスト勉強に取り組むよう指導していきます。

(2) 自学自習の習慣化への取組【自主学習ノートの取組】

ア 「自主学習ノート」の提出を記録し、生徒のやる気を喚起させながら家庭学習を習慣化させていきます。質的な向上のために教科担当がチェックしアドバイスやコメントを返しています。

イ 「自主学習ノート」は、生徒の理解度や状況に応じて、生徒自身で課題を見つけ考えながら行うことでより個人の課題に適した学習を行うことをねらいとしています。自分で学習の課題が見つけれない生徒には基本的なプリントや課題を与えながら、自学自習の習慣化へ繋げられるよう個別にも継続的に指導していきます。

(3) 家庭学習支援の取組

中学3年生を対象に、家庭で国語・数学・英語の受験勉強ができるように、それぞれの講義を収録し、ケーブルテレビで放映しています。講師は、南丹市立中学校（本校教員も担当しています。）の各先生です。テキストは事前に配布しています。ぜひ、積極的に活用してほしいです。

## 6 家庭生活についてお願いしたいこと

### (1) 基本的な生活習慣の確立【早寝、早起き、朝ご飯】

就寝時間、起床時間、朝食の摂取、あいさつをする等、府平均と同等もしくは良好な結果を示しています。今後も大切にしていいただければ幸いです。

### (2) ゲーム、スマホ・ネット等情報端末機器の使用に関するルールづくり

#### 【家族ルール】

スマホ・ネットは、効果的なツールとして今後ますます必要になってきます。ゲームも適度に楽しむ程度なら気分転換を図ることができます。しかし、健康、モラル、経済的な側面から、成長途中の生徒にとって、それらを使用するルールは必要です。

また、大人があるべき姿を子どもに示すことも大切です。そのためにも、家族みんなで使い方について話し合い、各家庭独自の「家族のルール」を決めていただければと思います。

### (3) 家庭での学習習慣の確立【毎日2時間の家庭学習】

家庭での学習時間2時間以上している生徒は、少ないです。中学校の学習内容をきちんと身につけるには、学校での授業はもとより、家庭学習の2時間は欠かせないものだと考えています。もちろん、その時間の長さだけでなく、内容、やり方によって効果が異なることについても考えなければなりません。

学校でも、学習ガイド等によって指導をしながら、教科でも課題等の出し方について工夫をしていきます。また、自主学習ノートの取組を継続していきます。

授業や学校生活がきちんとできている大変よい状況の中で、家庭学習に関しては、課題であり、ご家庭での協力が不可欠だと考えます。家庭学習の習慣化と質の向上、時間の使い方の工夫について、励ましやアドバイスをいただければと思います。

## 7 終わりに

今回の全国学力・学習状況調査では、「やや高い」という結果となりました。

今回の全国学力・学習状況調査は限られた教科の現時点での結果であり、それは子どもたちの学力のほんの一部を表しているにすぎません。子どもの豊かな学びや育ちには、健やかな心と体の成長が欠かせないことは言うまでもありません。子どもたちが中学校での学習内容を十分習得することは、中学校卒業後の希望する進路を自分自身で切り拓くために極めて重要です。

そうした観点から、今回の結果を踏まえ、ご家庭でも今の子どもたちの様子について振り返り、お話しをしていただければと思います。中学校としましても、今後さらに保・小・中の連携を深め、地域から信頼される学校・安心安全な学校づくりを目指し、充実した教育ができるよう一層努力してまいります。

保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。